

2026年5月30日

2026年度(公社)日本雪氷学会北信越支部総会

期日： 2026年5月30日（土）13:30～14:10

場所： IT ビジネスプラザ武蔵 6階交流室2（A会場）（金沢市武蔵町14番31号）

議事次第

議題0． 前回の議事録

議題1． 2025年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

議題2． 2026年度北信越支部事業計画案および予算計画案

議題3． 2026年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

議題4． その他

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 2025年度総会議事録

日 時：2025年5月31日 13:30～14:15

場 所：長野市生涯学習センター 4階 大学習室1 (A会場)

出席者：34名

議 題：

議題0. 前回の議事録

議題1. 2024年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

議題2. 2025年度北信越支部事業計画案および予算計画案

議題3. 2025年日本雪氷学会度北信越支部賞受賞者と授賞理由

議題4. 支部役員の改選

議題5. その他

(別紙1：2025年度北信越支部総会資料，別紙2：2025-2026北信越支部役員案_副支部長・理事・監事，
別紙3：2025-2026北信越支部役員案_顧問・評議員，別紙4：2025-2026北信越支部役員案_幹事長・幹事)

審議結果：

議題1. 2024年度事業・収支決算および監査結果が幹事長・会計担当幹事・監事から別紙1のとおり報告され，承認された。

議題2. 2025年度事業計画案および予算計画案が幹事長・会計担当幹事から別紙1のとおり提案され，承認された。

議題3. 2025年度北信越支部賞受賞者が支部長から別紙1のとおり報告された。

議題4. 2025-2026年度支部役員の改選について議論され，杉浦新支部長から別紙2のとおり副支部長・理事・監事が提案され，選任された。杉浦新支部長から新理事による理事会で議決された顧問・評議員が別紙3のとおり報告された。杉浦新支部長から別紙4のとおり幹事長・幹事が選任された。

議題5. 本吉幹事長から雪氷学会サーバーに設置されている北信越支部のHPについて，電子情報委員会でコンテンツマネジメントシステム等の問題が指摘されているため，WordPress等への移行を検討しているとの説明があった。今後，新執行部においてHPの移行作業が進められることとなるが，2025年度に準備を進め，2026年度に移行を完了するというスケジュール案が示された。本吉幹事長から支部講演会・学習会を随時受け入れており，支部会員から積極的に企画してほしいとのお願いがあった。

2025年5月31日

議長 河島 克久 (公印省略)

2025 年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

【2025 年度 事業報告】

1. 研究発表会

2025 年度北信越支部研究発表会・製品発表検討会（2025 年度北信越支部大会）

日時：2025 年 5 月 31 日（土）11:10～17:10

場所：長野市生涯学習センター

参加者：42 名

研究発表：30 件

プログラム：

研究発表会 11:10～12:15

総会 13:30～14:20

支部賞授賞式 14:20～14:45

研究発表会 14:50～17:10

2. 研修会等

2.1 講演会

今年の雪速報会 2024-25

日時：2025 年 6 月 9 日（月）13:30～16:40

場所：まちなかキャンパス長岡 3 階 301 会議室（オンライン併用）

共催：NPO 法人水環境技術研究会，（公社）日本雪氷学会北信越支部，（国研）防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，（一社）北陸地域づくり協会，日本雪工学会上信越支部

参加者：会場 100 名，オンライン 264 名

プログラム：

開催挨拶：陸旻皎（水環境技術研究会）

第一部：今年の雪の気象学的特徴について 司会：平島寛行（防災科学技術研究所）

北陸地方を中心とした 2024/25 冬の天候と降雪の特徴：中村 誠（新潟地方気象台 予報官）

2024/25 年に大雪をもたらした大気循環場の特徴：本田明治（新潟大学自然科学系地球・生物化学系列 教授）

第二部：今年の雪への対応について 司会：町田 敬（町田建設株式会社）

長岡国道事務所における今冬の取り組み：林 正樹（国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所 副所長）

新潟県における今冬の冬期道路交通確保の対応：小幡 晋（新潟県土木部道路管理課 雪寒事業係長）

IoT を活用した屋根雪荷重推定による雪下ろし時期の最適化：涌井 将貴（新潟工科大学建築都市学系 准教授）

青森県における今冬の大雪の状況：中村 一樹（防災科学技術研究所 雪氷防災研究所センター長）

福島県内で多発した雪崩の状況（仮題）：上石 勲（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター）

第三部：総合討論：太田あみ（長野地方気象台）

閉会挨拶：相村成一（北陸地域づくり協会）

能登半島地震雪氷災害対応検討委員会報告会

日時：2025 年 9 月 2 日（火）14:00～16:00

場所：オンライン

参加者：50 名

主催：能登半島地震 雪氷災害対応検討委員会

後援：(公社) 日本雪氷学会北信越支部，日本雪工学会上信越支部

第40回雪シンポジウム in 十日町

日時：2025年10月27日(月) 14:00～17:00

場所：道の駅クロステン十日町

参加者：130名

主催：第40回雪シンポジウム in 十日町実行委員会(十日町市/日本雪工学会上信越支部)

後援：国土交通省北陸地方整備局，新潟県，新潟県十日町地域振興局，(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，(公社) 日本雪氷学会北信越支部，(一財) 新潟県建設技術センター，(一社) 新潟県融雪技術協会，(公社) 中越防災安全推進機構，新潟県建設業協会十日町支部，NHK 新潟放送局，BSN 新潟放送，NST 新潟総合テレビ，TeNY テレビ新潟，UX 新潟テレビ21，朝日新聞新潟総局，読売新聞新潟支局，毎日新聞新潟支局，産経新聞新潟支局，新潟日報社，時事通信社新潟支局，(一社) 共同通信社新潟支局，(株) 十日町新聞社，十日町タイムス社，(株) 妻有新聞社，東頸新聞社，FM とおかまち，JCV 十日町情報センター，NCT，(一財) 十日町地域地場産業振興センター

2.2 見学会

第30回雪形ウォッチング

日時：2025年5月10日(土)～11日(日)

場所：宮城県栗原市

主催：国際雪形研究会，(公社) 日本雪氷学会北信越支部

参加者：58名

2.3 学習会

第17回新潟地方気象台-防災科学技術研究所雪氷防災研究センター合同談話会

日時：2026年3月3日 13:30～16:25

場所：新潟地方気象台9F会議室(オンライン併用)

共催：(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，新潟地方気象台，(公社) 日本雪氷学会北信越支部

参加者：会場21名，オンライン6名

プログラム：

開催挨拶 前多 良一(新潟地方気象台長)

講演1 「北海道の大雪事例に対する気候変動の影響評価」 田村 健太(雪氷防災研究センター)

講演2 「降雪量予想の傾向と細分毎の特徴について」 細井 大豪(新潟地方気象台)

講演3 「スマホを活用したAI路面判定システムの新潟市での試験運用」 上石 勲(雪氷防災研究センター)

講演4 「気象研究所における雪氷関連の研究について」 大河原 望(気象研究所)

講演5 「2024/25 冬季の大雪による青森県雪氷災害調査速報」 中村 一樹(雪氷防災研究センター)

閉会挨拶 中村 一樹(雪氷防災研究センター長)

2.4 講習会

積雪観測&雪結晶撮影講習会

日時：2026年1月17日 12:30～16:30

場所：(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

共催：(公社) 日本雪氷学会北信越支部，(公社) 日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

参加者：16名

プログラム：

「雪結晶で読み解く雲の心」 荒木健太郎(気象庁気象研究所)

「雪結晶・積雪粒子撮影法」藤野丈志（株式会社興和）
「積雪の変化と観測方法」勝島隆史（森林総合研究所）
積雪観測・雪結晶撮影 実習

3. 普及・啓発

3.1 支部ホームページの運営 (<https://ice.seppyo.org/hse/>)

大会プログラム・予稿集の掲載，および学習会等イベントの広報などの情報を随時更新

※支部ホームページアドレス (<https://ice.seppyo.org/hse/>) は新サーバーへの移行作業に伴う一時的なアドレスです。作業完了後に別のアドレスに変更される予定です。

3.2 教育普及に関する共催事業

積雪観測&雪結晶撮影講習会

日時：2026年1月17日 12:30～16:30

場所：(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

共催：(公社) 日本雪氷学会北信越支部，(公社) 日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

参加者：16名

プログラム：

「雪結晶で読み解く雲の心」荒木健太郎（気象庁気象研究所）
「雪結晶・積雪粒子撮影法」藤野丈志（株式会社興和）
「積雪の変化と観測方法」勝島隆史（森林総合研究所）
積雪観測・雪結晶撮影 実習

4. 2025年度北信越支部賞の表彰

雪氷技術賞：町田 敬氏（町田建設株式会社，取締役）

件名：デジタル技術を活用した道路雪崩の管理技術の近代化

雪氷奨励賞：砂子宗次朗氏（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，契約研究員）

件名：フィールド観測に基づいた多様な雪氷環境変動および雪氷防災に関する研究

雪氷功労賞：飯田 肇氏（富山県立立山カルデラ砂防博物館，学芸課長）

件名：長年にわたる立山山岳積雪観測と北アルプス現存氷河研究および支部活動への貢献

雪氷功労賞：上石 勲氏（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，契約研究員(前センター長)）

件名：長年の雪氷防災対策と支部活動への貢献

5. 出版事業

5.1 支部機関誌

「雪氷北信越」第45号を11月に発行した。北信越支部ホームページにて公開。

6. 管理事項

6.1 北信越支部総会

2025年5月31日（土），長野市生涯学習センター

6.2 理事・幹事会議

第1回理事・幹事合同会議：2025年4月25日～5月9日，文書審議

第2回理事・幹事合同会議：2025年5月16日～5月23日，文書審議

第3回理事・幹事合同会議：2025年12月25日，長岡市まちなかキャンパス 301 会議室（オンライン併用）

6.3 顧問・評議員会

2025年12月25日，長岡市まちなかキャンパス 301 会議室（オンライン併用）

【2025年度 収支決算報告】

	2025年度予算 (A)	2025年度執行 (B)	増減 (B)-(A)
収入	363,000	273,249	△ 89,751
会費収入 支部会員費	0	0	0
事業収入 研究発表会収入	35,000	27,000	△ 8,000
研究会講演会等収入	10,000	8,000	△ 2,000
出版収入 北信越支部機関誌	10,000	0	△ 10,000
雑収入	0	0	0
本部からの繰り入れ	308,000	238,249	△ 69,751
支出	363,000	273,249	△ 89,751
事業費 事業費計	270,000	134,287	△ 135,713
1調査・研究	0	0	0
2研究会 研究会 研究発表会 北信越支部大会	70,000	68,130	△ 1,870
研究会等 講演、見学、学習会	100,000	0	△ 100,000
普及・啓発 教育普及事業	15,000	4,282	△ 10,718
褒賞 北信越支部褒賞費	25,000	11,880	△ 13,120
3出版事業 支部機関誌 北信越支部機関誌	60,000	49,995	△ 10,005
その他出版	0	0	0
管理費 管理費計	93,000	138,962	45,962
事務局費	8,000	4,230	△ 3,770
会議費	85,000	134,732	49,732
支払手数料	0	0	0
役員選挙費	0	0	0
雑費	0	0	0


【2025年度 監査報告】

2026年5月15日

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 監査報告書

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部長 杉浦 幸之助 殿

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部監事

飯田 肇 

2025年4月1日から2026年3月31日までの2025年度における北信越支部会計及び事業の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、予算執行内容、予算規模、収支バランスについて確認した。
- (2) 事業監査について、事業執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

2025年4月1日から2026年3月31日に実施された北信越支部の予算執行内容、予算規模、収支バランスを監査した結果、正確妥当なことを認めます。

(2) 事業監査

北信越支部の活動は、別途作成された事業報告書のとおり、実施されていたことを認めます。

(3) その他

研修会、シンポジウム、学習会等について、参加者も多数で積極的に取り組まれたことを認めます。積雪観測講習会についても、たいへん意義ある催しなので、参加者増について検討ください。

2026年5月14日

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 監査報告書

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部長 杉浦 幸之助 殿

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部監事

長峰 聡 

2025年4月1日から2026年3月31日までの2025年度における北信越支部会計及び事業の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、予算執行内容、予算規模、収支バランスについて確認した。
- (2) 事業監査について、事業執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

2025年4月1日から2026年3月31日に実施された北信越支部の予算執行内容、予算規模、収支バランスを監査した結果、正確妥当なことを認めます。

(2) 事業監査

北信越支部の活動は、別途作成された事業報告書のとおり、実施されていたことを認めます。

(3) その他

気象庁気象研究所と海洋研究開発機構の共同研究(2026.4.23 プレスリリース)によれば、JPCZ 発生数が2010年以降増加に転じており、降雪量は日本海上や北陸地方の沿岸部で減少し、内陸部や山岳域では増加していることが報告されています。

このような背景からも、継続開催されている雪の速報会や積雪観測&雪結晶撮影講習会等、また単発ではあるものの、新潟-福島県境大規模雪崩研究会や能登半島地震雪氷災害対応検討委員会報告会等は、当学会(分科会)及び支部と外部を結んで雪氷防災に貢献するものです。今後も学会外を巻き込んだ企画が望まれるものと思います。

2026年度北信越支部事業計画案および予算計画案

【2026年度 事業計画案】

公益社団法人日本雪氷学会 2026年度 事業計画書

事業分類	事業小分類	事業名	担当	予算の有無
1調査・研究	調査			
	研究			
2研究会研修会	研究発表会	研究発表会・製品発表検討会の開催（金沢市）	北信越支部	有
	研修会等	講演会の開催（2回）	北信越支部	有
		見学会の開催（1回）	北信越支部	有
		学習会の開催（3回）	北信越支部	有
		積雪観測講習会の開催（1回）	北信越支部	有
	普及・啓発	ホームページの運営	北信越支部	無
		教育普及に関する事業の開催（2回）	北信越支部	有
	褒賞	2026年度北信越支部賞の表彰	北信越支部	有
3出版事業	学会誌			
	支部等機関誌	機関誌「雪氷北信越」46号の刊行	北信越支部	有
4その他	管理事項	総会の開催	北信越支部	無
		理事・幹事合同会議の開催	北信越支部	有
		顧問・評議員会の開催	北信越支部	有

【2026年度 予算計画案】

○2026年度 北信越支部に関する予算案

	2025年度予算 (A)	2026年度予算 (B)	増減 (B)-(A)
収入	363,000	363,000	0
会費収入 支部会員費	0	0	0
事業収入 研究発表会収入	35,000	35,000	0
研修会講演会等収入	10,000	10,000	0
出版収入 北信越支部機関誌	10,000	10,000	0
雑収入	0	0	0
本部からの繰り入れ	308,000	308,000	0
支出	363,000	363,000	0
事業費 事業費計	270,000	270,000	0
1調査・研究	0	0	0
2研究会研修会 研究発表会 北信越支部大会	70,000	70,000	0
研修会等 講演、見学、学習会	100,000	100,000	0
普及・啓発 教育普及事業	15,000	15,000	0
褒賞 北信越支部褒賞費	25,000	25,000	0
3出版事業 支部機関誌 北信越支部機関誌	60,000	60,000	0
その他出版	0	0	0
管理費 管理費計	93,000	93,000	0
事務局費	8,000	8,000	0
会議費	85,000	85,000	0
支払手数料	0	0	0
役員選挙費	0	0	0
雑費	0	0	0

2026 年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

2026年3月30日から4月3日までの間、リモート会議システム（Zoom）とメールによる審議を併用し、2026年度北信越支部賞受賞候補者選定委員会（河島克久（委員長）、飯田肇、石坂雅昭、上石勲、上村靖司、オブザーバー：杉浦幸之助（支部長））が開催された。推薦された支部賞候補者から、推薦書ならびに参考資料に基づき慎重に審議した結果、2件が受賞候補に選定された。その後、4月7日～4月16日の2026年度第1回北信越支部理事・幹事合同会議（文書審議）で承認された。

2026年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と件名は以下の通りである。なお、授賞理由については次ページ以降に示す。

大 沼 賞：堀 雅裕 氏

件 名：衛星観測を用いた北極海流入主要河川網の熱流束分布に関する研究

雪氷功労賞：納口 恭明 氏

遠藤 八十一 氏（故人）

件 名：長年にわたる雪形ウォッチングの主宰と雪形の普及

大沼賞：堀 雅裕 氏（富山大学，教授）

件 名：衛星観測を用いた北極海流入主要河川網の熱流束分布に関する研究

理 由：近年進行する地球温暖化は、とりわけ北極域において顕著であり、海氷の著しい縮小が観測されている。この海氷減少は、大気・海洋・陸面が相互に作用する複雑な気候システムの変化に起因する。その中でも、北極海へ流入する大陸河川を通じた淡水および熱の供給は、海氷の形成過程や海洋循環に直接的な影響を及ぼす重要な要因である。大陸河川の水温や流量は地上観測により計測されてきたが、観測点の地域的偏在性や、国際情勢や経済的制約による観測点減少の流れから、広域・高頻度観測が可能な衛星データの活用が期待されている。

堀雅裕氏は、2017年に打ち上げられた日本の地球観測衛星 GCOM-C に搭載された人工衛星センサ SGLI の高分解能熱赤外観測データを河川監視に応用し、従来は困難とされてきた北極海流入主要河川の表面水温および河道幅の時空間分布を、河口から上流数千 km にわたり日単位で明らかにした。さらに、河川流量に応答して変動する河道幅の高頻度変動情報を、熱赤外観測に基づく表面水温分布と統合的に活用するという独創的な発想により、地上観測に依存することなく広域的な河川特性の把握を可能とし、熱流束推定における従来の制約を一定程度補完した点は高く評価される。本研究は、衛星観測に基づく北極圏大規模河川解析の新たな方法論を切り拓き、従来の河川観測・解析の枠組みを拡張する先駆的な解析基盤を提示した。

以上のことから、堀雅裕氏の「衛星観測を用いた北極海流入主要河川網の熱流束分布に関する研究」は雪氷研究において斬新なアイデアを生みだしており、大沼賞に相応しい。

関連文献

- 1) Masahiro Hori, 2025, Eight-year variation in surface temperature and channel width of continental rivers in the Arctic derived using GCOM-C/SGLI, The Eighth International Symposium on Arctic Research (ISAR-8), R3-O-01.
- 2) 堀 雅裕, 2024, 主要な大陸河川を通じた北極海へ流入するエネルギーフラックスの 2018-2023 年の季節・経年変動. JpGU Meeting2024, ACG42-P13.
- 3) Masahiro Hori, 2023, Spatio-temporal Variations of Surface Temperature and Channel Width of the Arctic and sub-Arctic Rivers Observed from Space Using GCOM-C/SGLI During the Year 2018-2023, AGU2023, 2023AGUFM.C21E1288H.
- 4) Masahiro Hori, 2023, Monitoring surface temperature and channel width of the six Arctic rivers from space using GCOM-C/SGLI. The Seventh International Symposium on Arctic Research (ISAR-7), R3-P07.
- 5) Masahiro Hori, 2022, 4-year (2018-2021) variations of river surface temperature and channel width in the Arctic region derived from GCOM-C/SGLI. The 13th Symposium on Polar Science, Omp11.
- 6) Masahiro Hori, 2021, River surface temperature and channel width in the Arctic region derived from GCOM-C/SGLI, The 12th Symposium on Polar Science, IAp9.

- 7) Hori Masahiro, 2021, Near-daily monitoring of surface temperature and channel width of the six largest Arctic rivers from space using GCOM-C/SGLI. Remote Sensing of Environment. 263, 112538-112538.

雪氷功労賞：納口 恭明，国際雪形研究会，雪形ウォッチング世話人
遠藤 八十一（故人），国際雪形研究会，教祖

件 名：長年にわたる雪形ウォッチングの主宰と雪形の普及

理 由：国際雪形研究会は，遠藤八十一氏（故人），納口恭明氏らの日本雪氷学会北信越支部の会員が中心となって1994年に立ち上げた，雪形を楽しみ，研究する，緩い結びつきの集合体である。会則も会費も会員資格も一切曖昧であり，老若男女・国籍を問わず世界に広く会員らしき人がいる。研究会の設立以降，「Yukigata が世界の共通語になるまで」をスローガンに，雪形ウォッチングや雪形講演会の開催，雪形研究発表，雪形 T シャツ製作など，雪形の普及・伝承継続・科学的探究に楽しみながら取り組んでいる。

それらの活動の中でも，1995年から始まった雪形ウォッチングは，国際雪形研究会と日本雪氷学会北信越支部（見学会）の共催として毎年開催されているイベントであり，2025年5月10～11日の宮城県栗駒山大会で30回目を数えた。これまでの開催場所は北海道から東北地方・中部地方のほとんどの県を網羅しており，中には利尻島や佐渡島のような離島での開催や，コロナ禍におけるオンライン開催の実績もある。第1回から第30回までの参加者は延べ1,815人に上る。毎年のイベントでは，開催地の雪形研究家が案内人を務めることが大きな特徴であり，参加者は案内人との交流を通して雪形のみならず雪国文化を広く楽しみ理解することができる。

過去30年にわたる雪形ウォッチングの全てを世話人として取り仕切ってきたのが納口恭明氏であり，本イベントの毎回の盛会と長年の継続は納口氏の遊び心と人心掌握術の賜物である。また，納口氏とともに30回全てのイベントに国際雪形研究会教祖として参加された遠藤八十一氏は，参加者に安らぎと安心を与え，雪形ウォッチングになくてはならない存在であった。また，遠藤氏は，雪氷研究大会時に開催される雪氷楽会において，2024年まで毎年「雪形って知ってますか？」と題する出展をされており，雪形の普及に多大な貢献をされた。

以上のように，納口・遠藤両氏の「雪形ウォッチングの主宰と雪形の普及」が北信越支部の活動と発展に果たした貢献は多大なものであり，雪氷功労賞に相応しい。

関連文献

- 1) 国際雪形研究会，1997，雪形の研究 No.1，雪形って知ってますか？，119pp.
- 2) 国際雪形研究会，1998，雪形の研究 No.2，雪形って知ってますか？，156pp.
- 3) 納口恭明，雪形ウォッチング開催報告，多くの年の「雪氷」7月号に掲載。
- 4) 遠藤八十一，2003，雪形ウォッチングの科学的楽しみ方，信州大学山岳科学総合研究所編，山岳科学叢書1，山に学ぶ山と生きる，信濃毎日新聞社，198-204.
- 5) 遠藤八十一，雪形って知ってますか？，2024年までの雪氷楽会ガイドブックに掲載。

2025-26 年度 公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 役員

(* 本部理事)

支部長

杉浦幸之助* 富山大学学術研究部都市デザイン学系教授

副支部長

竹内由香里 森林総合研究所十日町試験地長
中村一樹 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターセンター長

支部顧問

花角英世 新潟県知事
新田八朗 富山県知事
宮崎悦男 小千谷市長
関口芳史 十日町市長
山田利明 加賀市長

支部評議員

宮澤健太郎 新潟県知事政策局長
杉田 聡 富山県生活環境文化部長
勝野和晃 小千谷市建設課長
荒川哲郎 十日町市建設部長
古川義純 中谷宇吉郎雪の科学館館長
加藤博亮 北陸電力送配電(株)電力流通部送電チーム統括課長
石坂雅昭 防災科学技術研究所客員研究員
和泉 薫 新潟大学名誉教授
上石 勲 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
河島克久 新潟大学災害・復興科学研究所教授
川田邦夫 雪環境研究塾塾長/富山大学名誉教授
齋藤浩之 (株)興和代表取締役社長/新潟県融雪技術協会会長
佐藤和秀 長岡工業高等専門学校名誉教授
鈴木啓助 信州大学名誉教授・特任教授/大町山岳博物館館長
竹井 巖 元北陸大学薬学基礎教育センター教授
古川大助 (株)アルゴス代表取締役
町田 誠 町田建設(株)代表取締役
丸山敏介 新潟電機(株)代表取締役
山田忠幸 山田技研株式会社代表取締役
横山宏太郎 元中央農業総合研究センター

支部理事

伊藤陽一 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任専門研究員
小川弘司 石川県立大学客員研究員
勝島隆史 森林総合研究所十日町試験地主任研究員
上村靖司 長岡技術科学大学工学部機械系教授

藤平 大	土木研究所雪崩・地すべり研究センター所長
熊倉俊郎	長岡技術科学大学工学部環境社会基盤系准教授
齋藤隆幸	(株) スノーテック新潟代表取締役
佐々木明彦	国土舘大学文学部准教授
島田 互*	富山大学学術研究部理学系准教授
瀬戸民枝	新潟県土木部都市局都市整備課課長
浜田 崇	長野県環境保全研究所自然環境部主任研究員
平島寛行	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
藤野丈志	(株) 興和水工部技師長
堀 雅裕	富山大学学術研究部都市デザイン学系教授
本田明治	新潟大学理学部教授
町田 敬*	町田建設(株) 取締役
松元高峰	新潟大学災害・復興科学研究所特任准教授
本吉弘岐	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
山口 悟	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター上席研究員
山下克也*	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
渡辺幸一	富山県立大学工学部教授

支部監事

飯田 肇	立山カルデラ砂防博物館学芸課長
長峰 聡	元新潟地方気象台観測予報グループ

支部幹事長

伊藤陽一	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任専門研究員
------	----------------------------

支部幹事

上村あみ	1)庶務, 2)会計, 3)雪氷北信越編集, 4)支部だより, 5)HP の各担当者
小川克昌	長野地方気象台防災管理 G 要配慮者対策係長
勝山祐太 ¹⁾	(有) アサップ代表取締役
木戸瑞佳	森林総合研究所十日町試験地研究員
榊 直人	富山県環境科学センター統括研究員
杉原幸信 ²⁾	土木研究所雪崩・地すべり研究センター研究員
砂子宗次朗 ³⁾	長岡技術科学大学工学部機械系助教
田村健太 ³⁾	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
永井翼	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター契約研究員
新屋啓文	(公社) 中越防災安全推進機構 地域防災力センター
西田陽一	新潟大学災害・復興科学研究所准教授
西村基志 ⁵⁾	(株) プロテックエンジニアリング
福井幸太郎	信州大学社会実装クラスター山岳科学研究所特任助教
藤本明宏 ⁴⁾	立山カルデラ砂防博物館主任学芸員
丸山ひかる	福井大学学術研究院工学系部門准教授
皆巳幸也	(株) ネクスコ・エンジニアリング新潟土木事業部土木技術部交通技術課
村井昭夫	石川県立大学生物資源環境学部准教授
山倉祐也	石川県立大学客員研究員
	(株) スノーテック新潟システム開発部課長

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 支部規程施行内規

- 第1条 本支部は、公益社団法人日本雪氷学会支部規程第1条に基づき、公益社団法人日本雪氷学会北信越支部と称する。
- 第2条 本内規は、支部規程第2条2項に基づき、本支部における支部規程の施行に必要な事項を定めるものである。
- 第3条 本支部の会員は、北信越地方（新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県）に在住する公益社団法人日本雪氷学会の会員とする。また、他支部に所属する会員であっても、本支部に所属することを希望する場合は、重複所属することを妨げない。
- 第4条 本支部に次の役員をおく。
- | | |
|-------|------------------|
| 支部長 | 1名 |
| 副支部長 | 若干名 |
| 支部顧問 | 若干名 |
| 支部評議員 | 若干名 |
| 支部理事 | 若干名（副支部長、幹事長を含む） |
| 支部監事 | 2名 |
| 支部幹事 | 若干名 |
- 第5条 支部長は、支部からの推薦に基づき、定款施行細則第28条により、定款第20条に定める理事の中から理事会において選出する。
- 第6条 副支部長、支部理事および支部監事は支部総会において、支部会員の中から選任する。
- 第7条 支部の幹事長は支部理事の中から支部長が委嘱する。支部幹事は支部会員の中から支部長が委嘱する。
- 第8条 支部長は本支部を代表しその会務を総理する。
- 第9条 副支部長は支部長に事故ある場合、その職務を代行する。
- 第10条 支部理事会は支部長、副支部長、支部理事で構成され、支部会務執行に必要な協議を行う。支部理事会の議長は支部長とする。
- 第11条 支部監事は支部の事業ならびに会計を監査する。
- 第12条 支部幹事会は幹事長、幹事で構成され、支部長の命を受けて支部事業の企画及び会計ならびにその他の会務を処理する。
- 第13条 支部長の任期は2年とする。ただし連続する2期を超えて在任することはできない。支部長を除く役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。その他は定款第24条の定めるところによる。
- 第14条 支部顧問および支部評議員は支部理事会の議決を経て支部長がこれを委嘱する。支部顧問及び支部評議員は本支部の発展に寄与するものとする。
- 第15条 本支部は毎年1回定時総会を開くほか必要に応じ臨時総会を開く。
- 第16条 総会においては下記事項の承認を受けなければならない。
- 事業報告・収支決算報告
 - 事業計画・予算案
 - 役員決定
 - 支部規程施行内規の変更
 - その他重要な事項
- 第17条 本支部の事業年度は毎年4月より翌年3月までとする。

附 則

本内規は2013年5月11日より施行する。